

60092

教科書文庫

5
420
34-1950
01304 49623

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教育部
資料室

文部省検定済教科書

1	1
学 図	小 理 2 0 0

二ねんせいの りか

教科書文庫
6
420
34-1950
0130449623



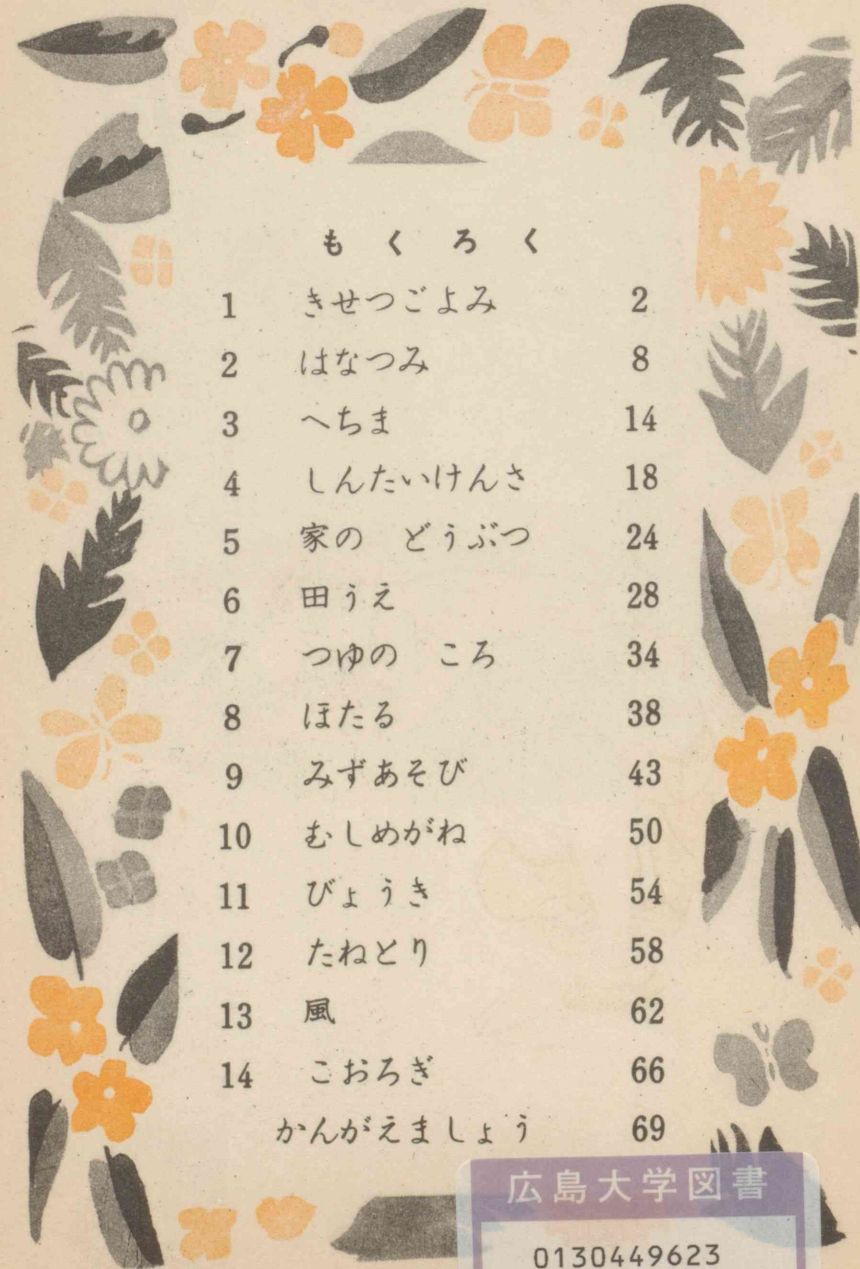
広島大学図書
0130449623



学校図書株式会社



中央図書館



もくろく		
1	きせつごよみ	2
2	はなつみ	8
3	へちま	14
4	しんたいけんさ	18
5	家の どうぶつ	24
6	田うえ	28
7	つゆの ころ	34
8	ほたる	38
9	みずあそび	43
10	むしめがね	50
11	びょうき	54
12	たねとり	58
13	風	62
14	こおろぎ	66
	かんがえましよう	69

広島大学図書
0130449623


寄贈

昭和25年 月 日 文部省検定済小学校理科用

教科書文庫
6
420
34-1950
0130449623

小学校

二ねんせいのりか

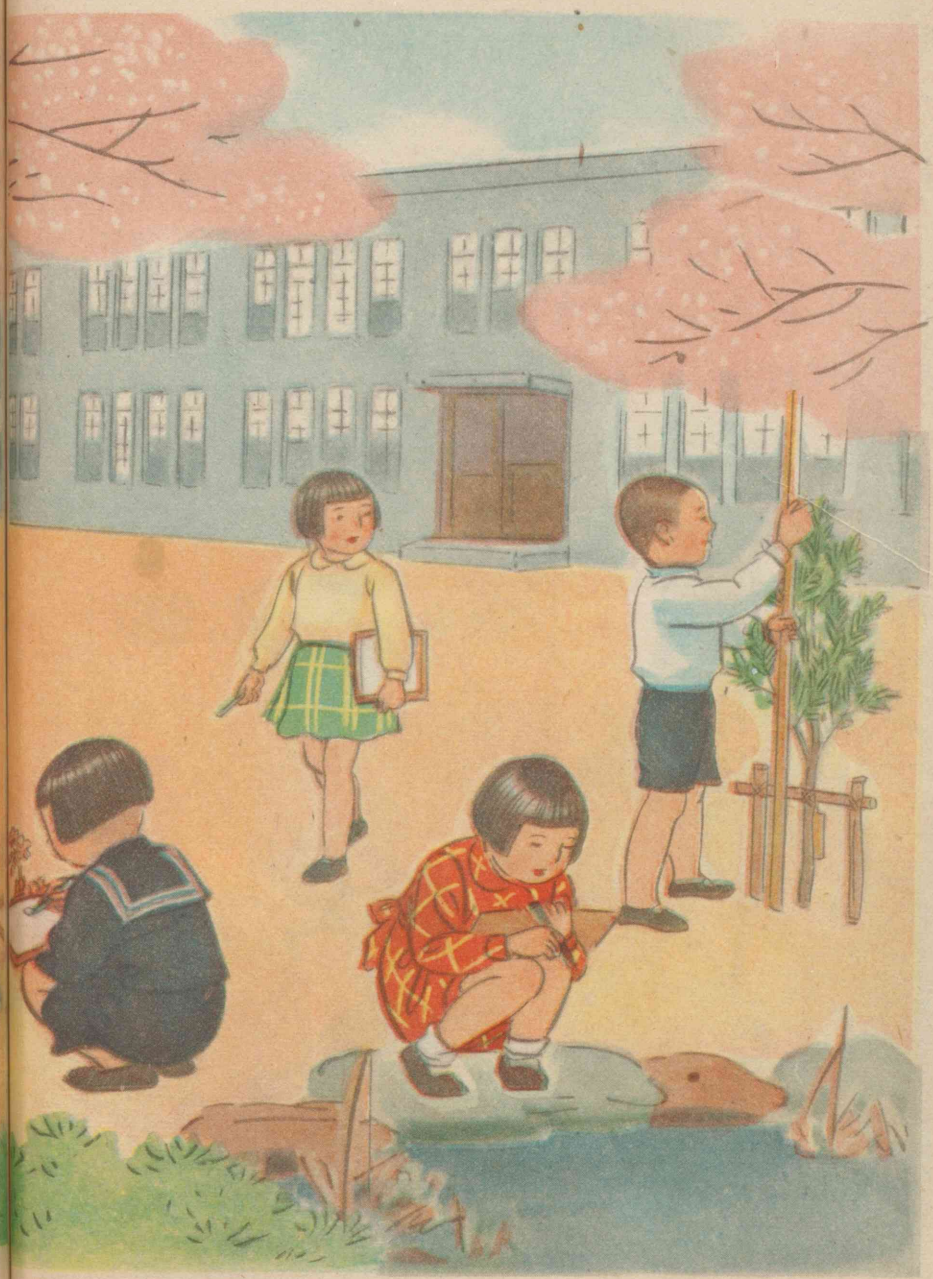
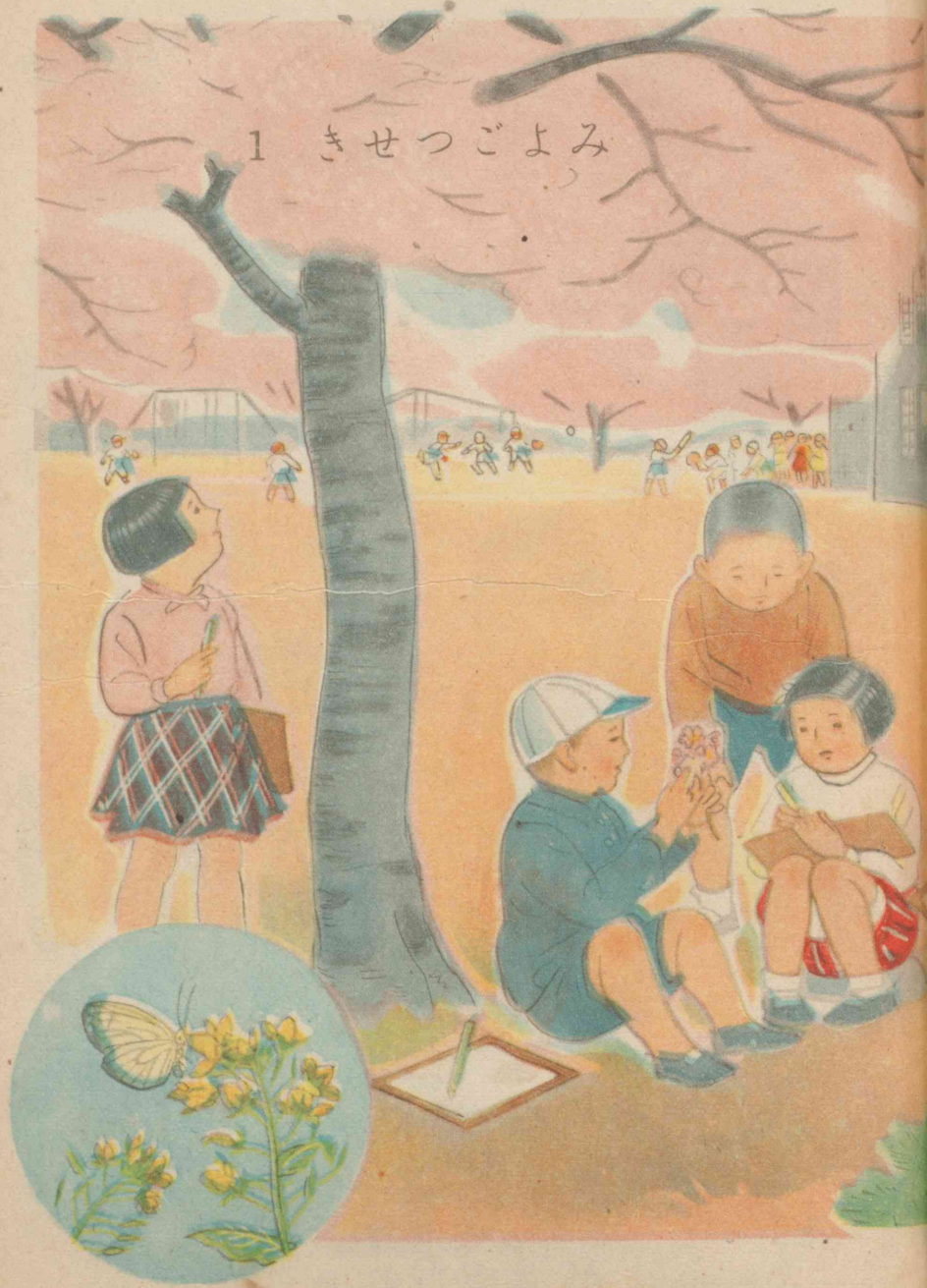
上

広島大学図書
0130449623




学校図書株式会社
教育学部図書

1 きせつごよみ



先生「さあ、もう二年生ですね。これから
どんなかんさつをしましょうか。」

まさお「ぼくは つばめの かんさつを します。
おうちの げんかんに、すをつくりはじ
めて いますよ。」

みよ子「わたくしは、いろいろのおはなで おし
ばなをつくりたいわ。」



みのる「ぼく、おたまじゃくしを しらべます。」

先生「どれも おもしろそうですね。みんなで

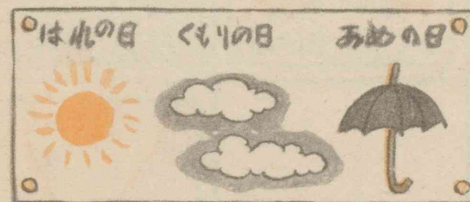
かんさつした ことを えに 書いて、大














きな かみにはたら どうでしょう。

これから じゅんじゅんにはっていくと、

きせつごよみが できます。」

みんな「おもしろいなあ、すぐ はじめましょう。」



日	4月5日	4月7日	4月8日	4月12日	4月15日	月 日	月 日
							
 きみた	 つばめがとんできた	 さくらがさいた	 おたまじゃくしをみつけた	 はるが来た	 つばめがたつた		
			 おたまじゃくし				

先生が 月と 日を書いた 大きな かみを
きょうしつ の うしろに はって くださいまし
た。

はるこが お日さまの えを 書いて はりま
した。

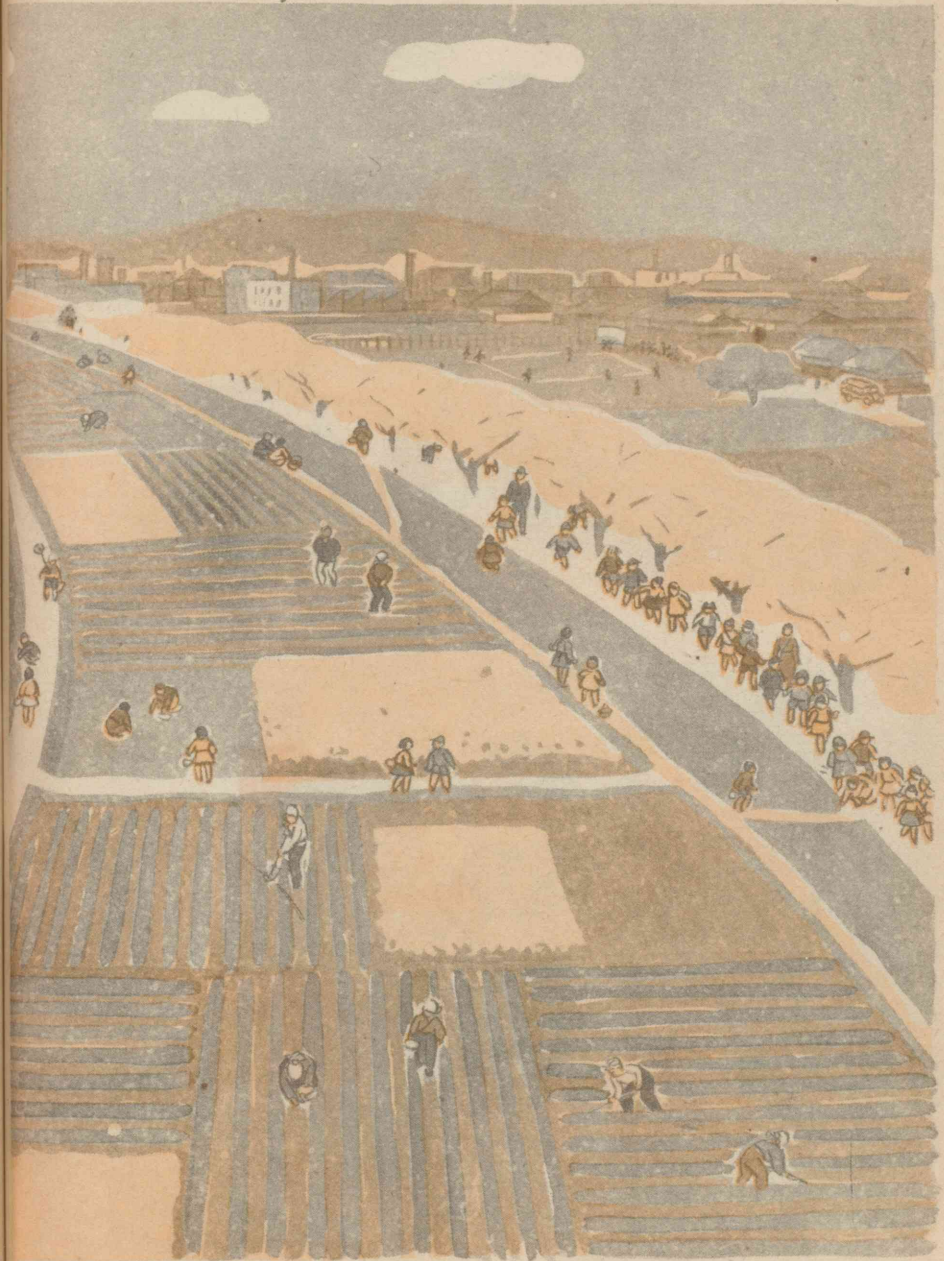
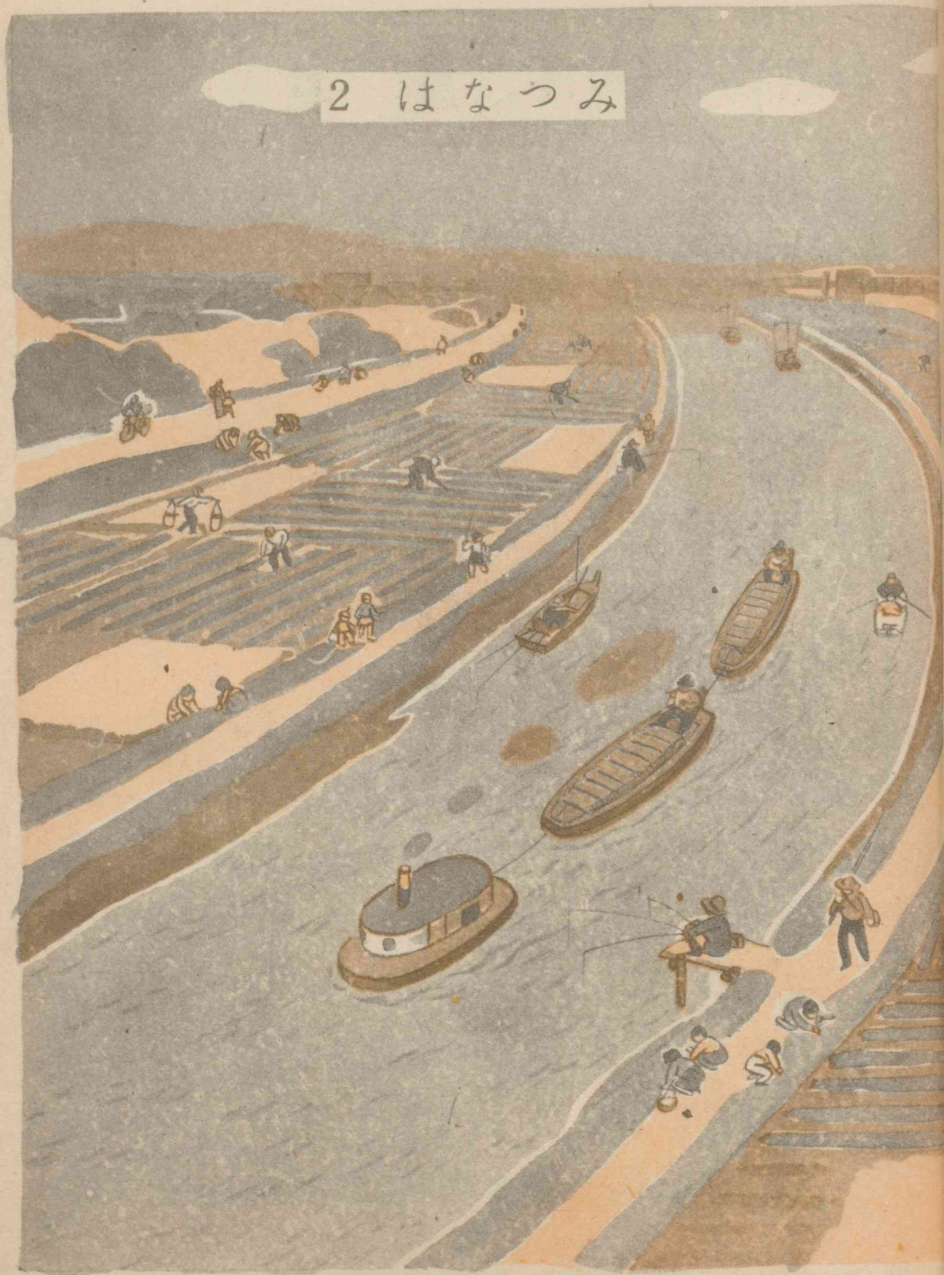
みのるが おたまじゃくしの えを 書いて
はりました。

まさおの 書いた つばめは なかなか じょ
うずです。

まい日 みんなで いろいろの えを はりつ
けます。どんな きせつごよみが できるか た
のしみです。

わたくしたちも きせつごよみを つくりまし
よう。

2 はなつみ



はなや ちょうの
えを 書きましょう。



きれいな はなたばを
つくりましょう。



がっこうや おうちの
うさぎにも おみやげを
もって いって
あげまし
ょう。



きれいな おしばなをつくり
ましょう。



こんな あそびは
やめましょう。



しんごうに ちゅうい
しましょう。

えだや はなを
おらないように
しましょう。



3 へちま
たねまきに よい きせつが きました。








へちまや どうもろこしなどの たねを まい
て そだてましょう。

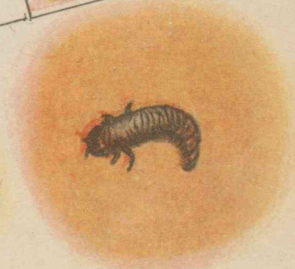
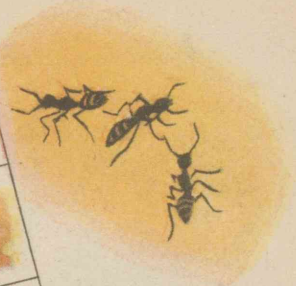


へちまや どうもろこしの めが でて きたら、その ようすを かんさつ しましょう。また、よく ていれを して やりましょう。



へちまに つき

4月18日	へちまのたねをまきました。はたけがや	はたけをまきました。はたけを	
4月19日	まだ	しているときじむしがいました。	
4月20日	め	がでません。みみずが	
4月21日	は	だして	
4月22日	ま	だしました。	
4月23日	ま	がでました。	
4月24日	ま	つるのながさは3センチメートルです。	
	ま	へちまは、げんきに	
	ま	のびて	
	ま	きました。	
	ま	ました。	
	ま	ました。	



4 しんたいけんさ

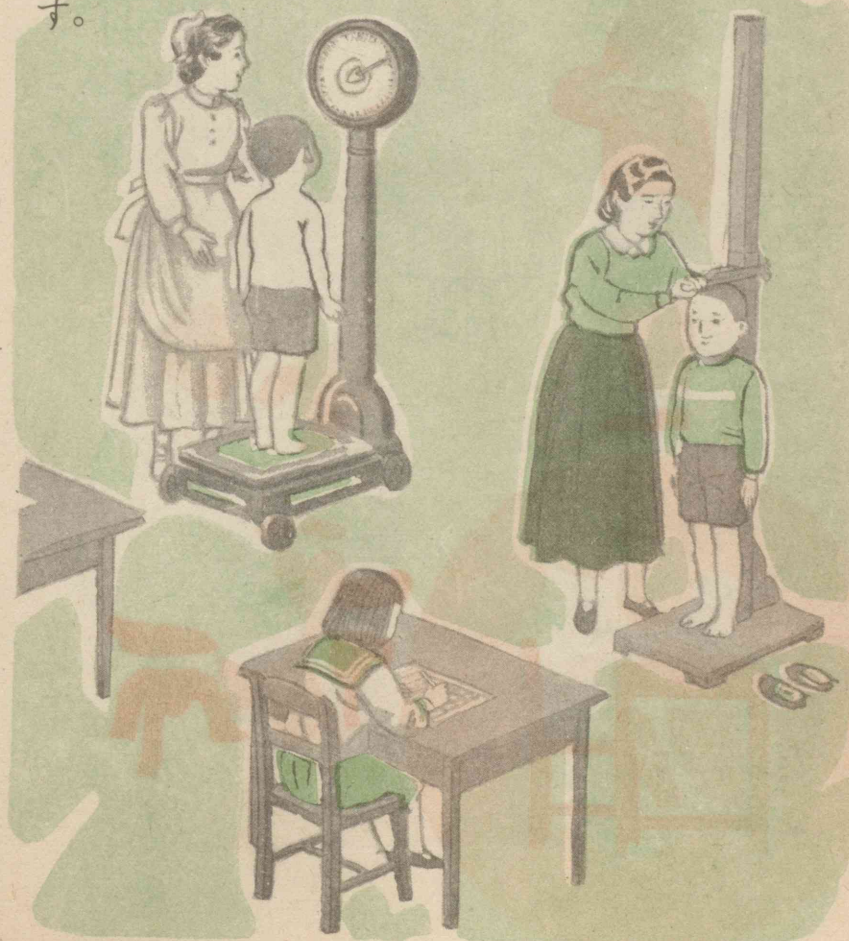


きょうは しんたいけんさです。こういの先生が むねや せなかを よく しんさつしてくださいました。

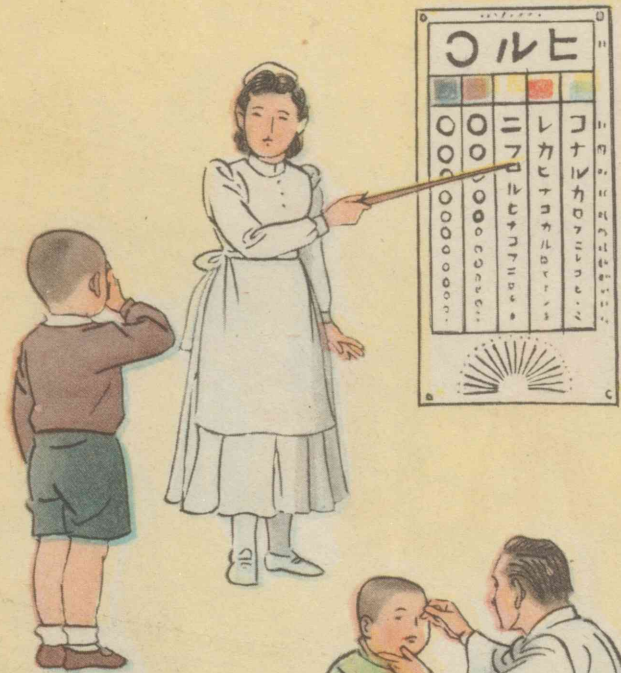
みんな からだが じょうぶです。こういの先生も にこにこ して いらっしゃいます。

からだの おもさや せいの たかさは このまへ はかった ときより どれくらい ふえたでしょう。

からだの おもさや せいの たかさが よく ふえるのは からだの じょうぶな しょうこです。

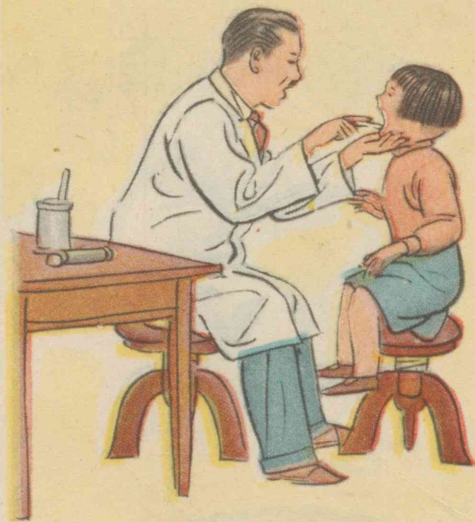


よい目
目を たいせつに しましょう。



ただしい しせい

よい は
むしばは ありませんか。



ねる まえにも
はを みがきましょう。





つかれない うち
に やすみましょう。

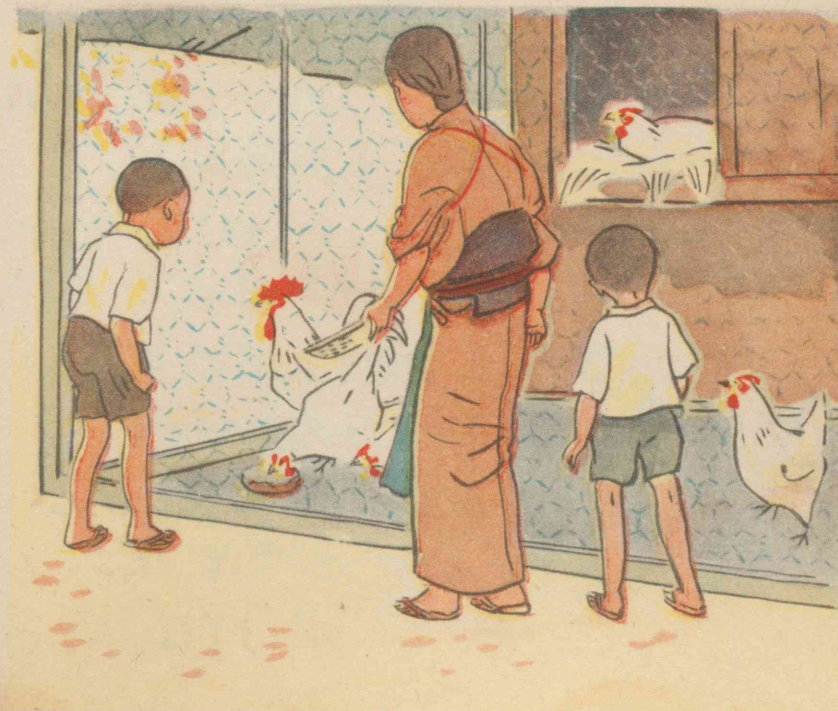
5 家の どうぶつ

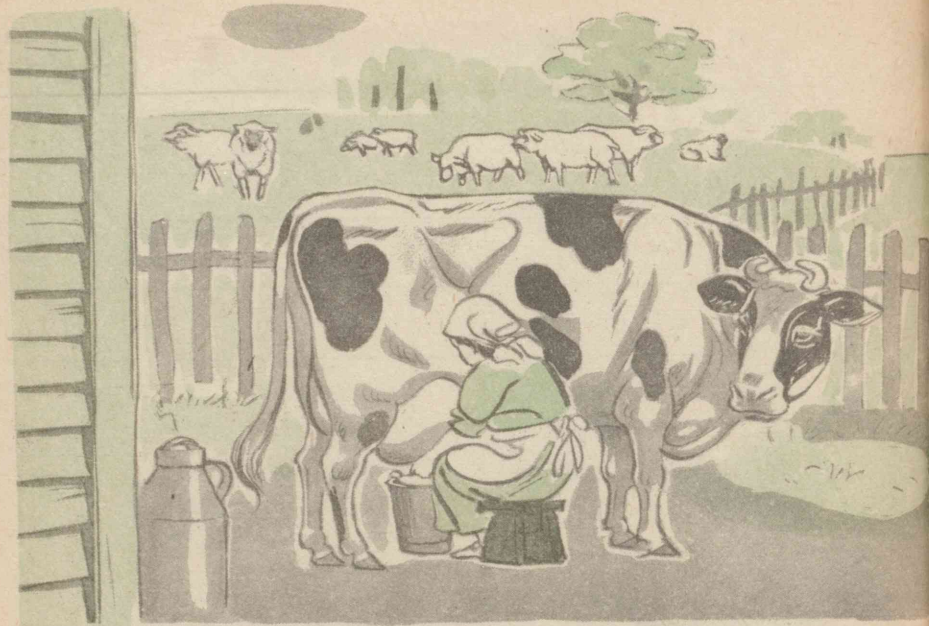


家の どうぶつ

たまごを うむ もの	にわとり あひる
ちちが とれる もの	やぎ うし
しごとを する もの	うし うま
あしが 4ほん ある もの	うし うま うさぎ ねこ
はねの ある もの	にわとり あひる

この ほかに どんな どうぶつが 家に いる でしょう。





みんなで やまの まきばに いきました。
 みのる「あの うし、とても よく ふとってるね。
 それに おちちが 大きいなあ。」
 みよ子「あれが ぎゅうにゅうを しぼる うして
 すって。」



先生「たんぼに はたらいて いる
 うしとは ちがいますね。」
 みよ子「たんぼで はたらい
 ている ちゃいろ
 の うしは ちょう

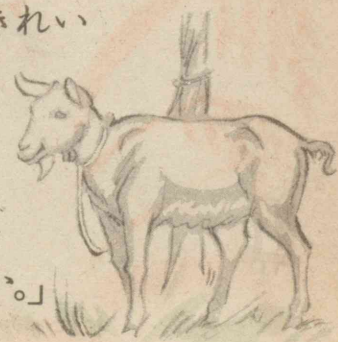


せんうしでしょう。」
 まさお「あかちゃんぶたが おちちを のんで い
 るよ。この ぶたごや ずいぶん きれい
 だなあ。」

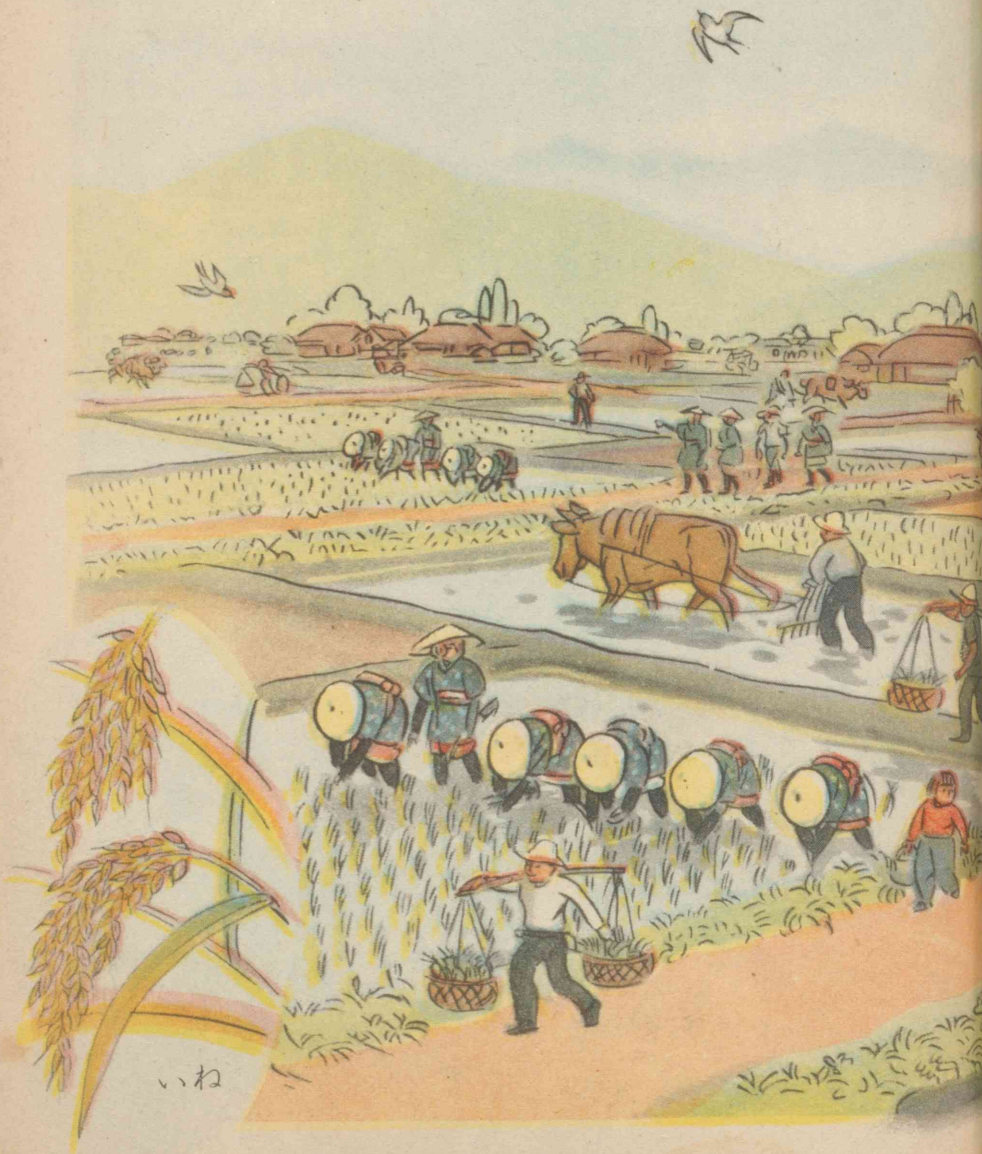
先生「ぶたは ほんとうは きれい
 ずきなのですよ。」

まさお「先生、あの やぎのよ
 うな けの もじゃもし
 ゃしたのは なんですか。」

先生「あれが ひつじです。」

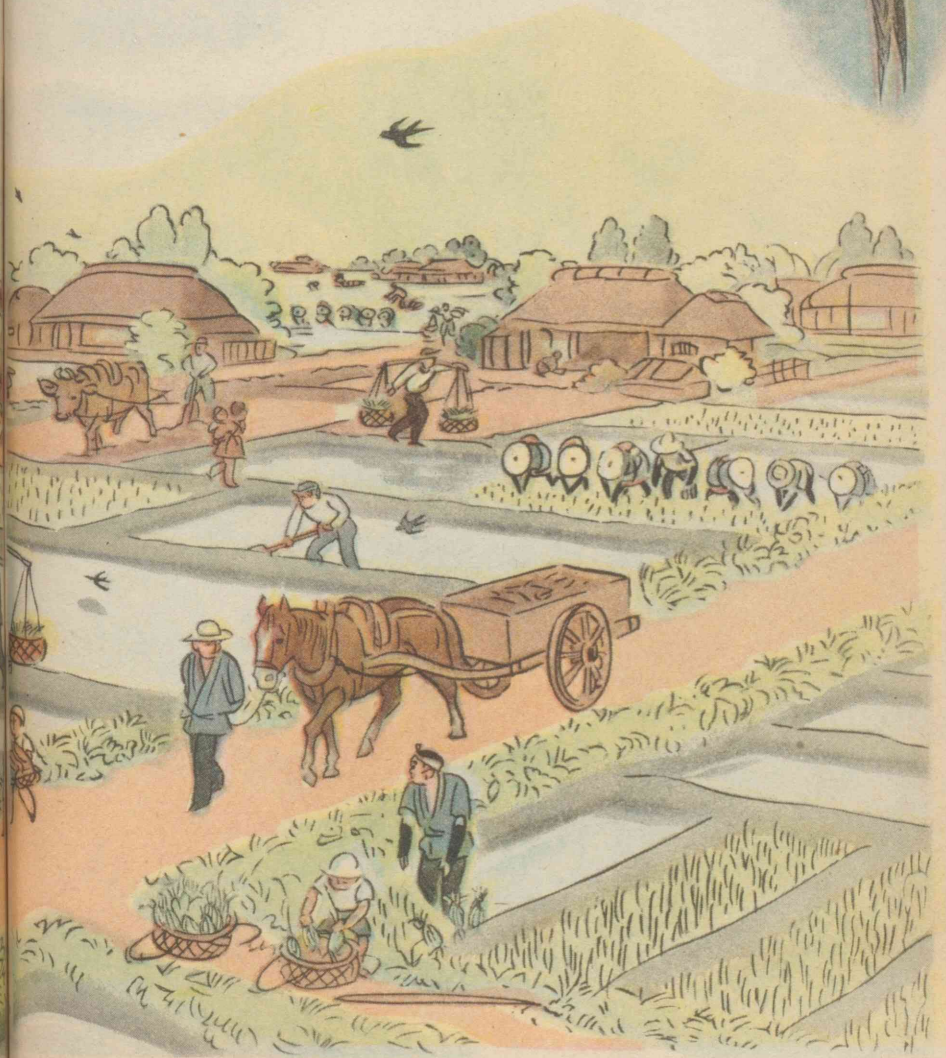


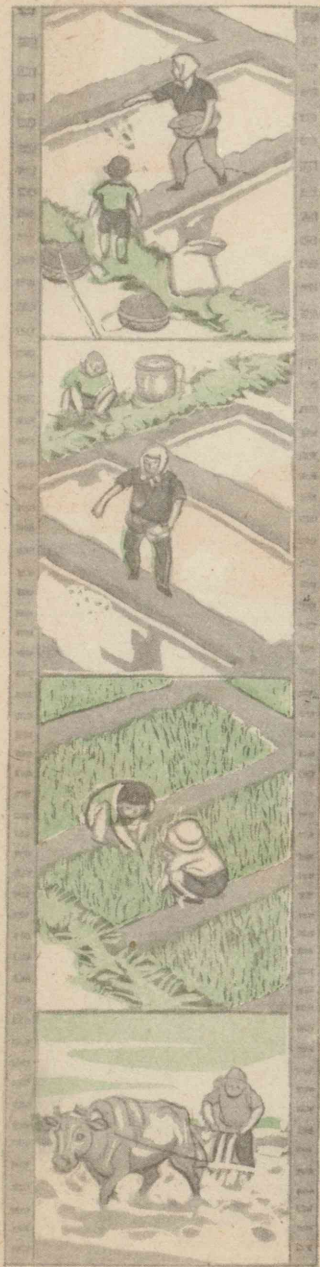
6 た い え



いね

つばめ





な わしろ つくり
 田を あさく たがやして
 なわしろを つくりました。た
 んぎくがたに くぎりを して、
 こやしも まきました。

も みまき
 いよいよ たねまきです。
 じょうぶな なえが できるよ
 うに、すずめに たべられない
 ように しましょう。

む しどり
 なえが でそろいました。
 なえを たべる わるい むし
 を とりましょう。つばめも
 てつだって くれます。

し ろかき
 うしが どろまみれです。
 いねの ねが よく はるよう
 に よく たがやして います。

えとり
 な なえが みごとに そだち
 ました。なわしろに はいって
 なえとりです。

うえ
 田 なえたばを かたてに も
 って かたてで なえを うえ
 て いきます。なんと ぎょう
 ぎよく ならんで いる こど
 でしょう。

かいめの くさとり
 一つゆが おわるころ 一か
 いめの くさとりを します。
 げんきな いねが すくすく
 そだって いきます。

む したいじ
 いねを たべる むしも
 でて きます。よるに なるど
 ゆうがとうが きれいです。



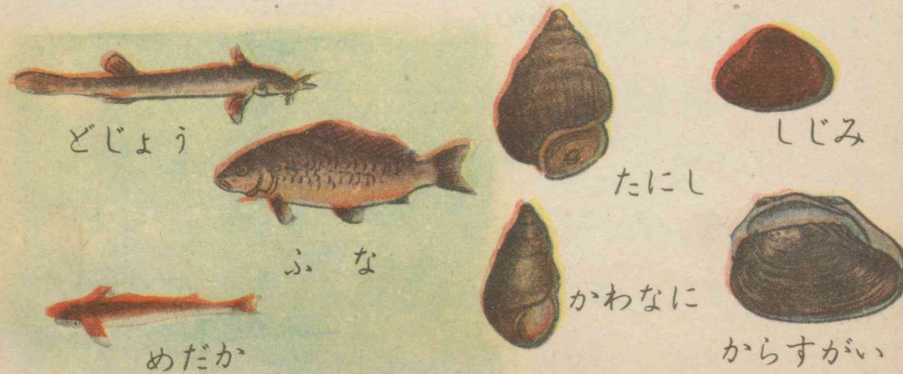


田うえの時 おがわに ふなや めだかが
いたので みんなで とりに いく ことに
しました。

「あ、もう だれか とって いるよ。」

「ぼくらは やく いこう。」

すくいあみをもった まさおと みのるは
はしりだしました。みよ子も ばけつを さげて



どじょう

ふな

めだか

たにし

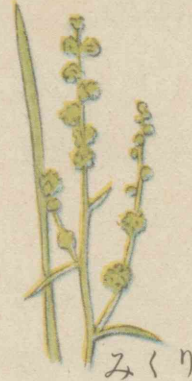
かわなに

しじみ

からすがい



がま



みくり



こうほね

おおいそぎです。

おがわの みずは もう ぬるんで います。

「あら、みずすましが わを かいて いるわ。」

「ほら、そこに すいすい およいで いるのが
あめんぼうだよ。」

みんなは めだかや みずすましを とりまし
た。おうちで だいに そだてるのです。

みずすまし

あめんぼう

たいこうち



げんごろう

たがめ

みずかまきり

7 つゆのころ

きょうも また しとしと 雨が ふって
います。これで もう 5日も つづいて 雨ふ
りです。

きものも ほんも しめっぽく なりました。
くつにも グローブにも かびが はえて い
ます。

もう いいかげんに はれないかなあ。

まさおは そらを みあげて いいました。



なめくじ

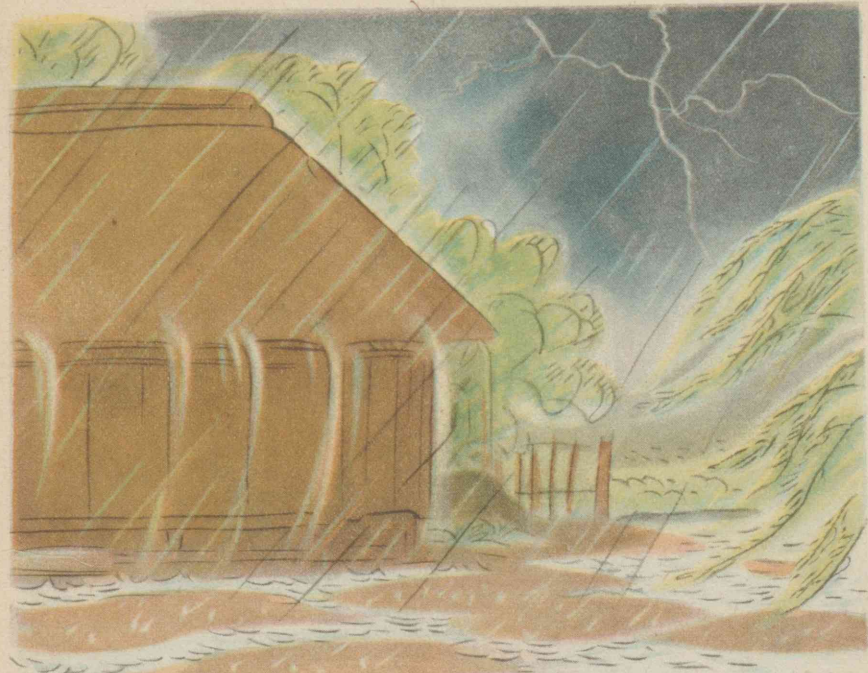
「でも たんぼの いねには この 雨が たい
せつなんですよ。」

と、おかあさんが おっしゃいました。たんぼの
いねは あおあおと げん気に のびています。

おにわの 木も よく しげって きました。

うめの みも いろが ついて きました。



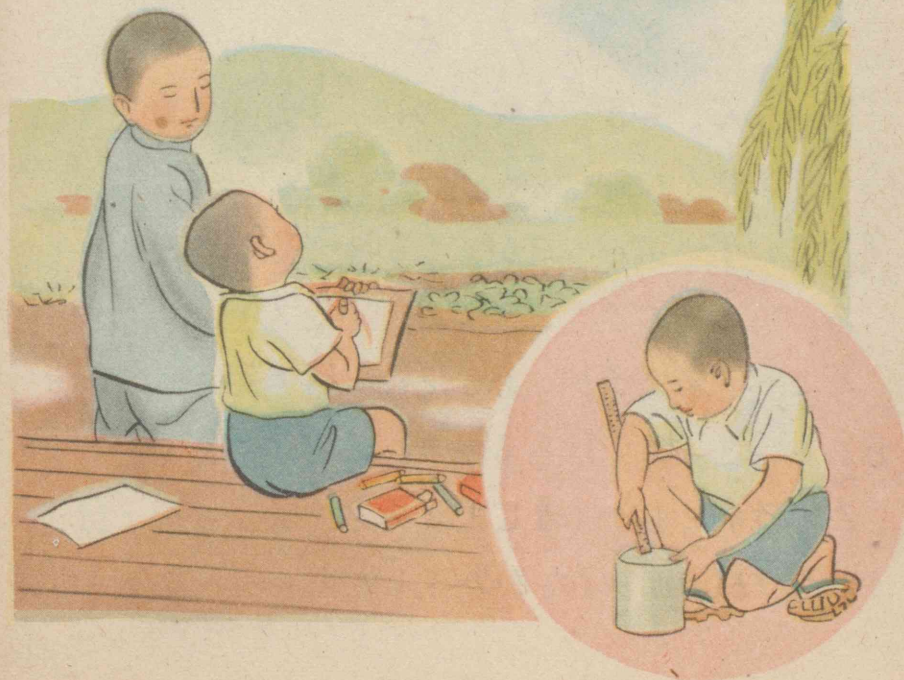


ゆうだちが やって きました。
ピカッ、ゴロ ゴロッ。
まさおは おどろいて くびを ちぢめました。
「はは、かみなりは まだ とおいから だいじ
ょうぶだよ。」
と、にいさんが わらいました。お母さんが、
「やっと これで つゆが あけましたね。」
と、おとうさんに 話しました。
また、かみなりが になりました。

雨が やんだので、にわに でて
あきかんに うけた みずを はかっ
てみました。3センチメートルも あり
ます。にはには まだ みずが どんどん
ながれて います。

「やあ、きれいな にじだ。」

にいさんの こえて、空を みると うつくし
い 七いろの にじが でて います。まさおは
いそいで しゃせい しました。





8 ほたる

「にいさん、もう 7時なのに まだ くらくなりませんか。」

「うん、ずいぶん 日が ながく なったからなあ。でも もう じき くらくなるよ。」

そこへ みよ子が むかえに きたので まさおたち 3人は ほたるとりに かけました。

たんぼの ちかくまで くと むこうの ほうから「ほ、ほ、ほたるこい。」と、いう こえが



きこえて きます。ほたるが ひかりながら すうっと とんで いきます。

「あそこに とんで くるよ。」

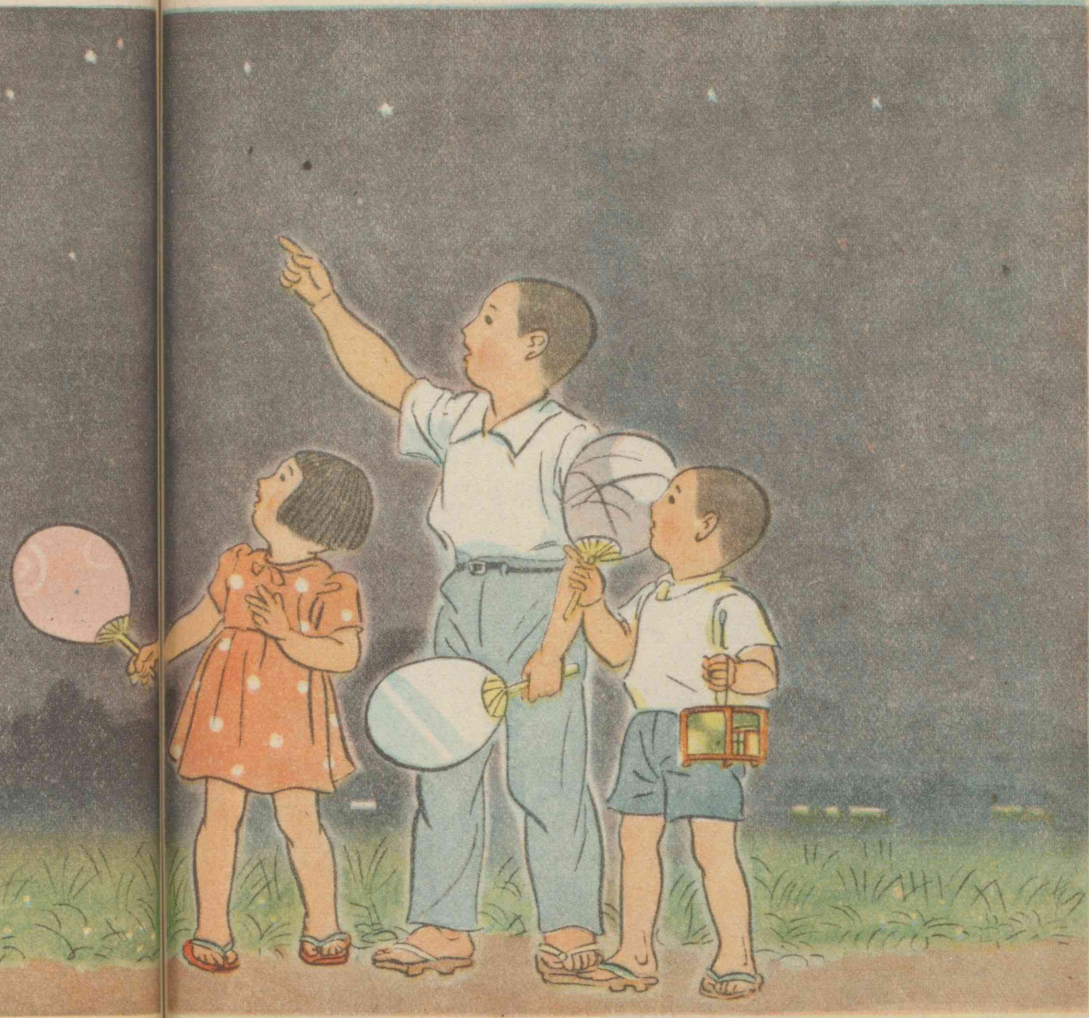
「あら、この くさの なかにも ぴか ぴか ひかって いるわ。」

「にいさん、ほたるは おしりて ひかるのですね。でも ちっとも あつく ありませんよ。」

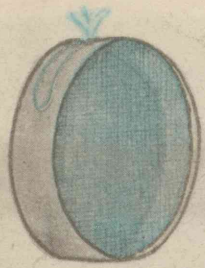
「そうだ。それに ぬれても きえないだろう。」



「もう、8時はんだ。そろそろ かえろう。」
「あれが あまの川ですね。」
「たなばたの ほしは どれでしょう。」
「ほら あまの川の ふちに とても よく



ひかる ほしが みえるね。あれが おりひめ
だよ。」
「それじゃ、おりひめの むかいがわの ひかっ
た ほしが ひこぼしですね。」



めす

おす

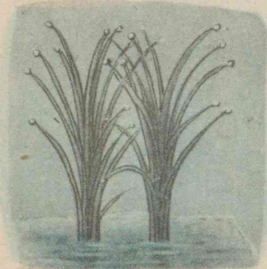


へいけぼたる げんじぼたる

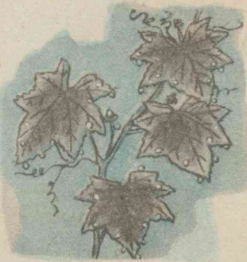
「にいさん、ほたるには なにを たべせたら
いいの。」

「えさは なんにも やらなくても いいよ。た
だ ほたるかごの なかに つゆの ついた
くさを 入れて やれば いいんだ。」

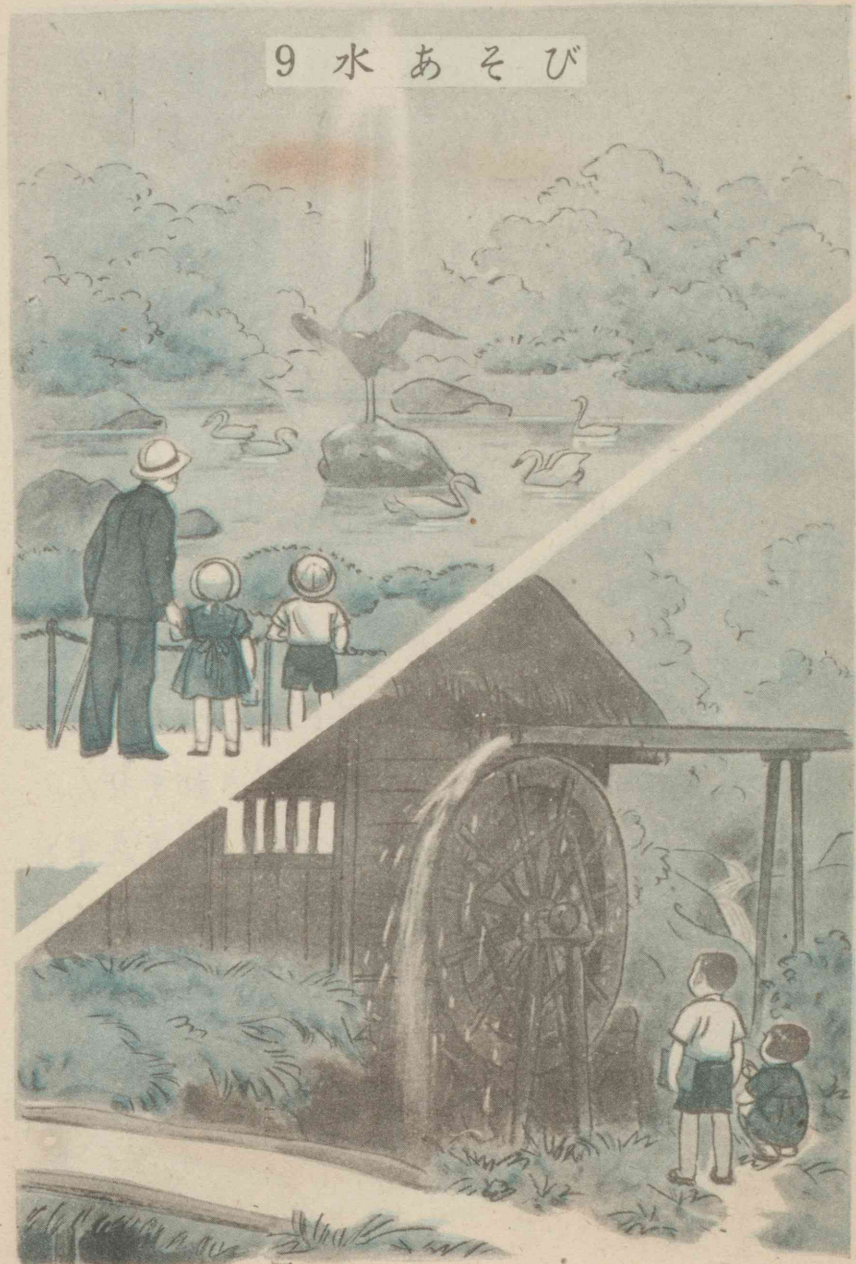
「それは かんたんだなあ。あしたの あさ つ
ゆの ついた くさを 入れて やろう。」

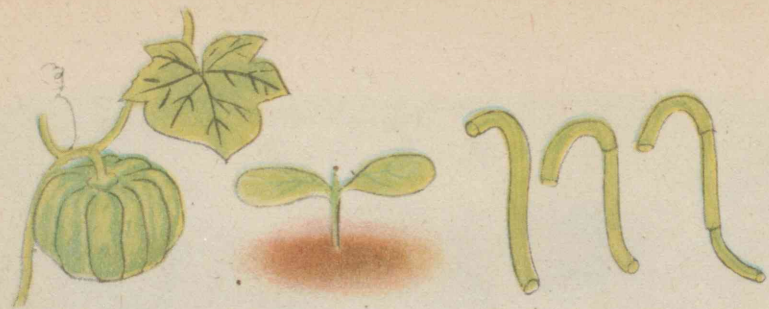


○ あさは
やく おきて
いろいろの
はに ついて
いる つゆを
みましょう。



9 水あそび





みよ子の くふう

まがった かぼちゃの はの えを きりどつて みずだしを くふう しました。この えを みずの はいった ばけつに かけて ぐちで すって はなすと みずが つづいて できます。

みずが 少し へると チュッと おどが して とまります。かぼちゃの はの えを ニつ つぎたすと、みずの なかに ふかく はいり、みずが なかなか きれませんが、

もう一つ 下に つぎたすと、みずが いきおいよく できました。



しげるの くふう

しげるは ふんすいを つくって います。

いっぽうに ふしの ある ほそい たけに きり で 小さい あなを あけました。これを みよ子の つくった かぼちゃ の みずだしの 下 に つけました。みずが いきおいよく ふきあがります。

「やあ、ふんすいが できた。

ばんざい ばんざい。」

しげるは おおよろこびです。



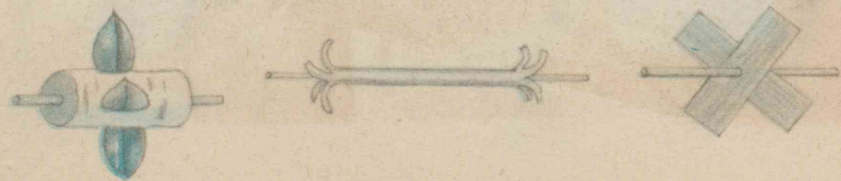


よし子の くふう

よし子は みずぐるまをつくりました。

だいこんを わぎりにして、それに ほそいたけをとおして じくに します。それから だいこんの まわりに みじかく きた しゆるのはをつきさします。

この みずぐるまを かぼちゃのはの えから てる みずにあてると いきおいよく まわります。





おもしろい てじな
ここに たまごど みず
の はいった コップが
あります。この コップの
なかに たまごを いれる
と……………しずみます。



では、この たまごを
うかせて みせます。



そーら、ういたてしよー。
どうしてでしよー。

たねあかし—たまごが しずんだ ほうの
みずは まみずですが、ういたほうの みずには
しおが たくさん とかして あるからです。

ここに 三つの コップ
が あります。1の コッ
プ には うすむらさき、
2の コップには うすき
いろ、3の コップには
きれいな みずが はいっ
ています。



1の コップの みずを
はんぶん 2の コップに
うつします。おや まっか
な いろに かわりました。



1の コップの みずを
3の コップに 入れて
みます。こんどは こい
みどりになりました。



たねあかし—1の コップには しその は
の しぼりじる、2の コップには す、3の
コップには はいを 入れた みずの うわずみ
が はいって います。



「おや、えんぴつがこんなに大きく見える。あれ、ぼくのてのゆびも大きいぞ。おとうさんのゆびより大きいや。すじがたくさんあるよ。へんだなあ。」

まさおは むしめがねで いろいろなものを のぞくのに むちゆうです。

「おーい、まさお、早くきてごらん。」

おにわのほうから にいさんが よびました。

「はーい、いますぐ。」

まさおは むしめがねを もったまま にわに きました。

「あわふきむしだよ。みてごらん。」

まさおは さっそく むしめがねで のぞいて みました。

「やあ、おもしろいなあ、あわふきむしが かくれんぼ して いるよ。」

それから いろいろな むしや はなを むしめがねで のぞいて ノートに 書きました。



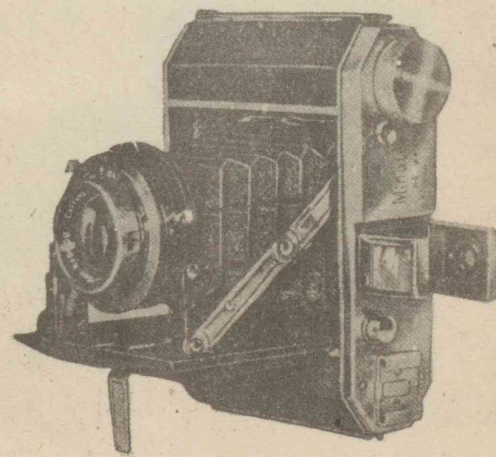
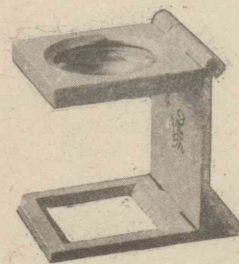
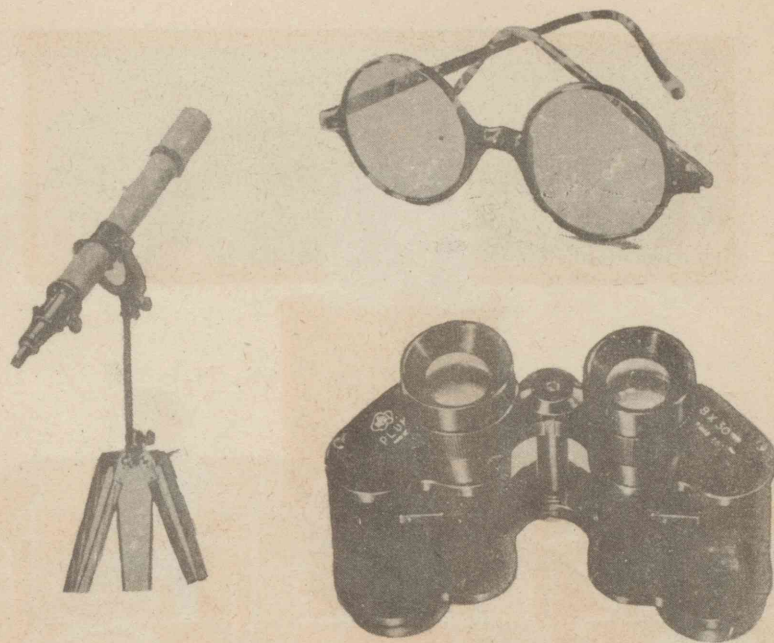
「まさお、その むしめがねで とおくの ほう
を みて ごらん。」

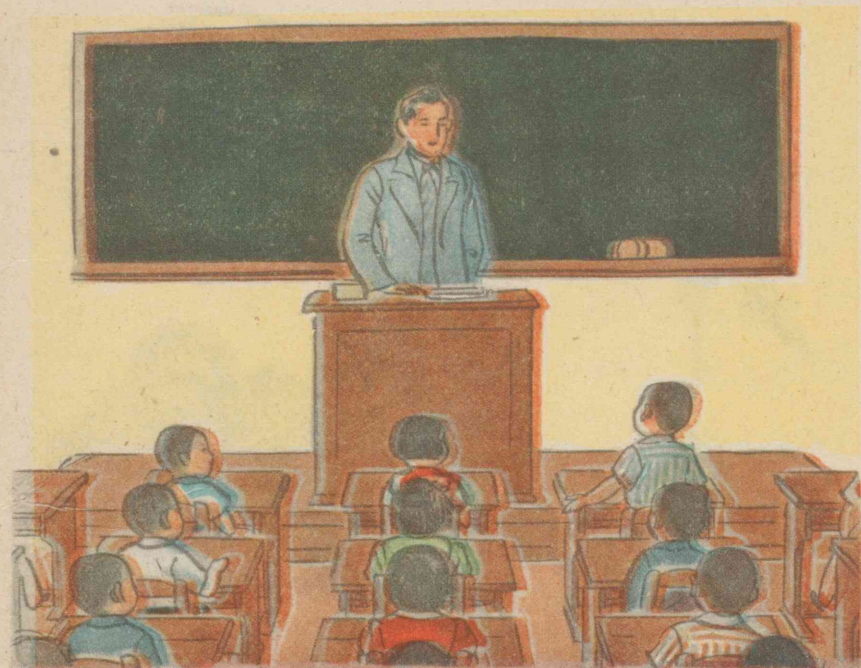
「おや、へんだなあ。おうちが さかさまに み
えますよ。それに ずいぶん 小さいなあ。」

まさおは むしめがねで あちら こちらの
けしきを みて います。お日さまは どんなに
みえるだろうか、みてみよう と しますと、にい
さんが あわてて、

「お日さまの ほうを みては いけない。目を
わるくするから。」

と、いって どめました。





11 びょうき

はしかで がっこうを やすんで いた みの
るが でで きました。
先生「みのるくん 早く なおって よかったね。」
みのる「はい、ぼく、もっと 早く がっこうに
きたかったのですが、おかあさんが ゆる
して くれかったのです。」
みよ子「わたしたちも おみまいに いったかっ
たのよ。でも 先生に とめられたの。」

先生「そう、はしかは うつる びょうきですか
ら、びょうきの 人に ちかづいては い
けないのです。みずぼうそうや かぜなど
も うつる びょうきですよ。ねつが あ
ったり、せきが でたら、早く おいしゃ
さんに みて いただく ことです。むり
をすると びょうきも わるく なり、ひ
どにも めいわくを かけますからね。」





げんきな こども

すききらいを

せずに なんでも たべま
しょう。



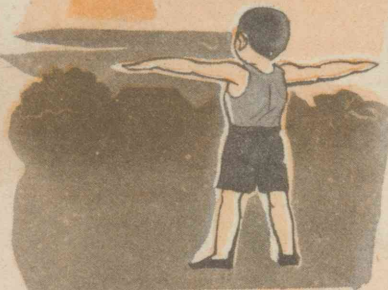
よるは 早く

やすみましょう。



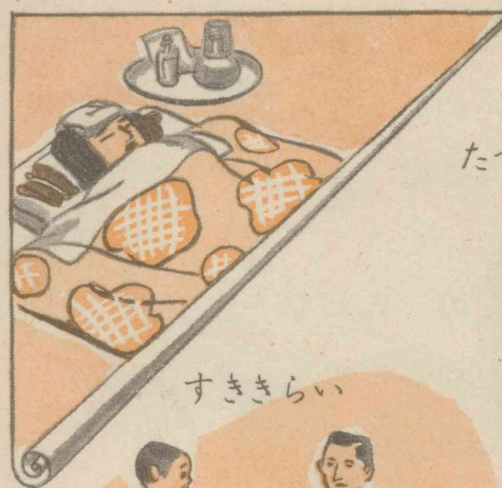
あさは 早く

おきましょう。



てあしを きれい

に あらきましょう。



びょうきの もと

たべすぎ



すききらい



きたない



よふかし



ねびえ



12 たねとり

どうもろこしは たねに する みに しろし
 を つけました。へちまは まだ 少し とるに
 は 早いようです。

かだんの くさばなの たねを とりました。
 ふくろに いれて たねの なまえと、とった
 日と、はんの なまえを 書きました。



それから はたけの くさとりを
しました。

よし子「この くさの たね、 まつば

ぼたんにて いますね。」

先生「まあ、よく きが つきましたね。それは
すべりひゆと いう くさです。」

まさお「みのるくん、きみの ズボンに いのこず
ちの みが いっぱい ついているよ。」

みのる「やあ、いつのまに ついたんだろう。あれ、
まさおくんの ズボンにだって ぬすびと
はぎの みが たくさん ついて いるよ。」



いのこずち

ぬすびとはぎ

すべりひゆ



まさお「これは しまった。じぶんの ことには き
が つかなかったよ。」

みよ子「先生、この くさは ぬきとろうと すると
たねが みんな とんで しまいます。」

先生「それは ひめむかしよもぎと いう くさで
す。この くさの たねは 風に とばされ
て ちらばるのです。」

よし子「先生、たんぽぽも そうでしょう。」

みんなは いろいろの くさの たねを あつ
めて しらべて みる ことに しました。



ひめむかしよもぎ

たんぽぽ

13 風

「まさおさん、みて ごらん。ほら、くちで ふ
いても こんなに よく まわるわよ。」

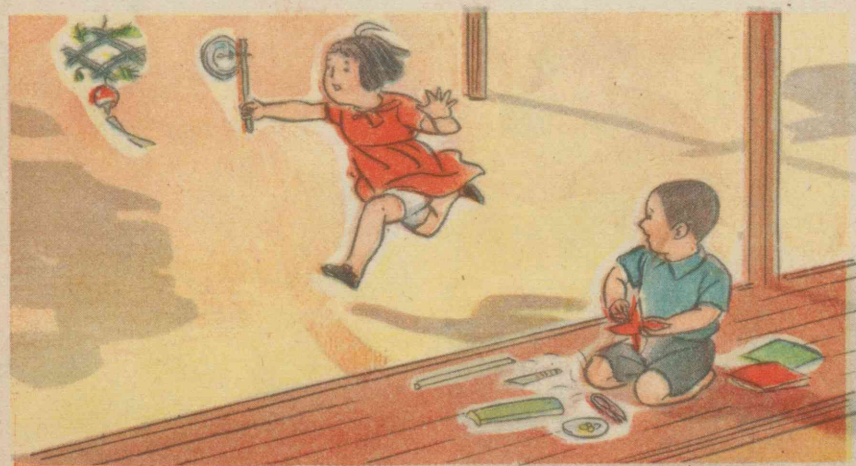
「うん、風に むかって 早く はしたら、も
っと もっと よく まわるよ。」

「わたし、おにわで やって みるわ。」

「ぼく、もう少しで できあがるから、 さきに
まわして おいでよ。」

お日さまの ひかりが おうちの ずっと な
かの ほうまで あたっ ています。

ふうりんが ときどき きれいな おとを だ
して なります。



ゆうがたから 風が つよくなりました。
ゴ、ゴーツと にわの 木や 家を ゆすぶって
どおりすぎます。

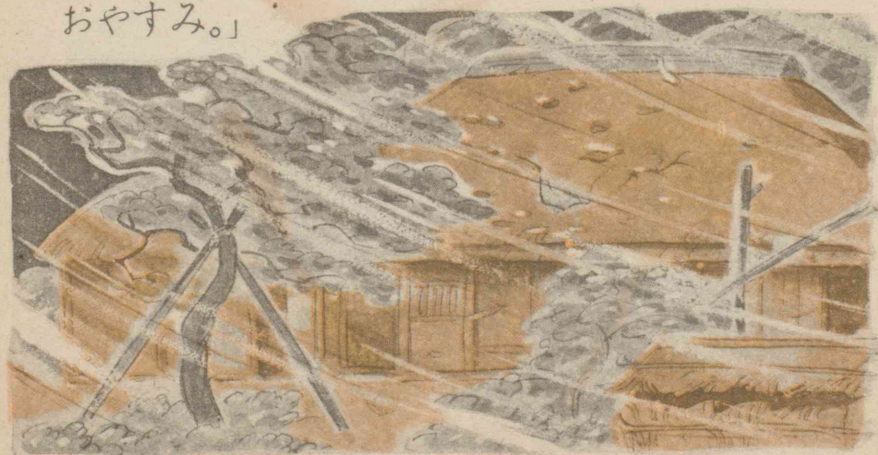
「まさおさん もう おやすみなさい。」

「でも、ぼく しんぱいなんだもの。あ ぼくの
あさがおの はち どうしたかしら。」

「あさがおの はちは おうちに いれましたよ。
にわの 木に ささえも つけたし、だいじょ
うぶよ。」

「そう、おうちが とばないかしら。ラジオで
なんと いったの。」

「もう すぐ やむでしょう。しんぱいしないで
おやすみ。」



14 こおろぎ



みのる「いた いた 大きな こおろぎが。 ひ

げも ずいぶん ながいね。」

みよ子「ここにも いたわ。この こおろぎは

小さいわね。まだ こどもかしら。」

まさお「それは しゅるいが ちがうのだから。

きっと なきごえも ちがうよ。」

みよ子「だいに もって かえって おうちで

かって みましよう。どんな こえて

なくか しらべて みましよう。」

みのる「えさは なにを やったら よいだろうか。」

みよ子「なすか きゅうりを きって やったら

いいでしょう。」

コロ、コロ、コロ、
えんまこおろぎ



リ、リ、リ、リ、
おかめこおろぎ



うまおい

かねたたき

すずむし

まつむし チンチロリン チンチロリン
 すずむし リーン リーン リーン
 くつわむし ガチャ ガチャ ガチャ
 きりぎりす キリギリ スッチョン
 うまおい スイッチョ スイッチョ
 かねたたき チン チン チン
 おけら ジー ジー ジー

おけら

まつむし

きりぎりす

くつわむし

かんがえましょう

1. つぎの えを つなぎあわせて きせつごよみの フィルムをつくらうと して います。どんな じゅんじょに したら よいでしょう。



2. よいでしょうか。わるいでしょうか。

○ ふみおは じぶんの たべかけの りんごを しげるに あげました。

——よい。わるい。

○ すみ子は あめを にわに おとしたので つちを ぬぐって たべました。

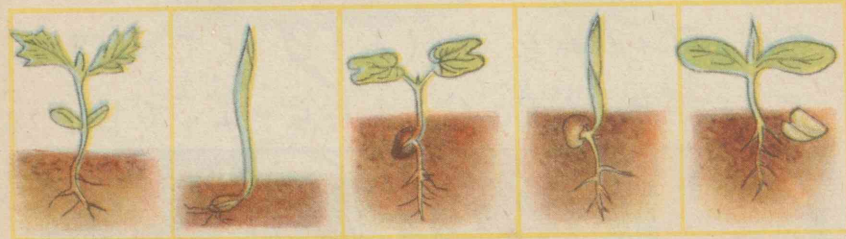
——よい。わるい。

○ えんそくの 時 おべんとうの まえに すいどうの みずで てを あらいました。

——よい。わるい。

3. つぎの えは なんの めばえでしょう。

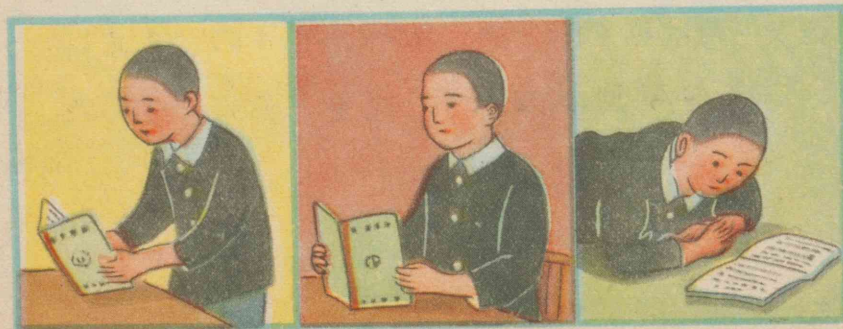
下に なまえを 書きましょう。



4. つぎの えに 大きくなる じゅんに ばんごうを つけましょう。



5. つぎの 3人の うち どの しせいが よいでしょう。



6. つぎの どうぶつは なんでしょう。

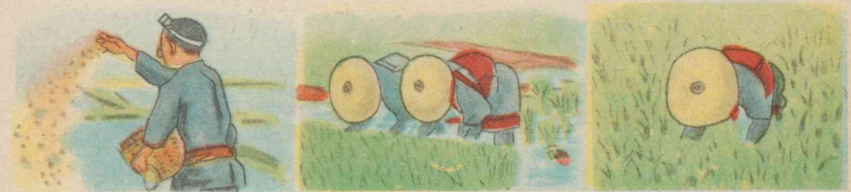
○ その どうぶつは おうちに かわれて います。

○ その どうぶつは あしが 4ほんです。

○ その どうぶつは しごとをする しゅるいとちちをとる しゅるいどがあります。

さて、その どうぶつは なんでしょう。

7. 下の えは なにを している ところですか。



8. つぎの 人の したことは どちらが よい でしょうか。

○ たろうは あそびに むちゅうに なって よる おそくまで おきて いたので、あさねを しました。

じろうは、ねる じかんが きたので あ

そびを やめて 早く ねました。

○ みち子は あたまが いたいので すぐ
おかあさんに いって おいしゃさんに み
てもらいました。よし子は おなかが く
だりでしたが、だまって ごはんを たくさ
ん たべました。

○ はるおは あつくても ねまきを きて
ねました。とおるは はだかて ねました。

9 みぎの ことばと ひだりの ことばを む
すんで ぶんじに しなさい。

つゆの ころは 大風が ふく。
夏には しとしとと 雨が ふる。
秋に なるど ゆうだちが くる。

10. どんなに して たねが ちらばるでしょう



たんぽぽ ほうせんか ひめむかし
いのこずち ぬすびとはぎ よもぎ

Copyright 1950, by
The Gakkō Toshō Co., Ltd.

All rights reserved

The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the publisher.

本書の指導書・ワークブック・註釈書並びに
これに類するものの無断発行を禁ずる。

小理 200

Approved by Ministry of Education

(Date 1950)

昭和25年 月 日 文部省検定済 小学校理科用

二ねんせいのりか上

編修者 東京都文京区大塚窪町
東京高等師範学校附属小学校内
財団法人 教育図書研究会
理事長 東京高等師範学校教授 佐藤保太郎
担当執筆 東京高等師範学校教諭 近藤釧三
" 丸本喜一
" 赤松彌男
" 荻須正義

昭和25年 月 日印刷 定価
昭和25年 月 日発行

著者 財団法人 教育図書研究会
会長 務台理作
東京都港区芝三田豊岡町八番地
発行者 学校図書株式会社
代表者 川口芳太郎
東京都港区芝三田豊岡町八番地
印刷者 図書印刷株式会社
代表者 川口芳太郎

東京都港区芝三田豊岡町八番地

発行所 学校図書株式会社

広島大学図書

0130449623



財団法人 教育図書研究会編